

1. 科目名 (単位数)	外国語活動の指導法 (2 単位)		3. 科目番号	SJMP2301 EDEL2321
2. 授業担当教員	志手 和行			
4. 授業形態	講義、 演習 (ペア・グループ活動、ディスカッション、プレゼンテーション)	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	小学校教諭一種免許状取得希望の者が望ましい。			
7. 講義概要	今日、日本の英語教育は著しく進展し、2020 年から、小学校 3.4 年生対象の外国語活動が開始された。そこでこの新しい動きに柔軟に対応し、より良い授業を目指すため、本講座では、まず、外国語活動の基礎となる外国語指導法や児童のための発音と語彙指導について学習する。次に、テーマを決めて実際に使用されている指導案を検討し、良い点や課題を皆でディスカッションする。その際、受講者自身が外国語活動を体験しつつ、指導法の学びを深め、指導技術に磨きをかける。その後、グループで模擬授業を体験することを通して、外国語活動への理解を深め、教育現場への応用を考えていく。			
8. 学習目標	教師の立場、学習者の立場の両面から、外国語活動の指導について多角的に学習し、オーセンティックな指導案の検討と外国語活動の体験を通して、外国語活動の学習と指導のあり方について理解を深め、模擬授業を通して、教育実践力を高めることができる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 授業内容の理解を深めるために予習・復習としてテキスト内の指定した範囲を読んでもらう。 2. 発音と語彙力を向上させるために発音と語彙に関するワークシートに取り組んでもらう。 3. 第10回目以降に、グループで外国語の授業の学習指導案 (レポート課題として位置付ける) を作成してもらう。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】樋口忠彦 (代表) 『新編 小学校英語教育入門』 研究社、2017 年。 【参考書】各自英和辞書を持参のこと。他詳細は授業中に指示する。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 外国語活動の目標と内容について理解を深めることができたか。 2. 外国語活動の指導法・発音・語彙指導に関する理解を深めることができたか。 3. 実際に使用されている指導案の検討と外国語活動の体験を通して、外国語活動の学習と指導の在り方について理解を深めることができたか。 4. 模擬授業の体験とクラスディスカッションを通して、教育実践力を高めることができたか。 ○評定の方法 復習テスト 30% レポート課題 40% コースワーク (授業中の態度、言語活動参加度、グループワークレポートを含む) 30%			
12. 受講生へのメッセージ	小学校の外国語教育は、児童に言語や文化への興味・関心を持たせることがまずは大切である。そのためにも外国語を教える立場として、英語をことばとして捉え、その学びを楽しめるようにしよう。英語力は高ければ高いほどよいが、それよりも英語という言葉、それに伴う文化的要素について興味・関心を更に持つようにしよう。自身が英語を楽しめることが、児童への興味・関心を高めることに繋がっていく。			
13. オフィスアワー	第 1 回の講義の際に指示をする。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第 1 回	オリエンテーション 小学校外国語教育の目的と目標	事前学習	教科書の第 1 章を読み、小学校における外国語教育の目的と目標を把握する。	
		事後学習	外国語教育の目的と目標について再度教科書の該当部分を熟読し復習する。	
第 2 回	I. 理論編：外国語教育のための指導法 ①Communicative Language Teaching (CLT) ②The Natural Approach	事前学習	教科書の第 9 章 (pp. 123-126) を読み、指導法①、②について理解する。	
		事後学習	指導法①、②の特徴及び指導上の留意点について再度教科書の該当部分を熟読する。	
第 3 回	③Content-Based Instruction (CBI, 内容中心教授法) ④Task-Based Language Teaching (TBLT, タスク中心教授法)	事前学習	教科書の第 9 章 (pp. 126-130) を読み、指導法③、④について理解する。	
		事後学習	指導法③、④の特徴及び指導上の留意点について再度教科書の該当部分を熟読する。	
第 4 回	⑤Total Physical Response (TPR, 全身反応法)	事前学習	教科書の第 9 章 (pp. 130-131) を読み、指導法⑤について理解する。	
		事後学習	指導法⑤の特徴及び指導上の留意点について再度教科書の該当部分を熟読する。	
第 5 回	⑥英語の発音と語彙指導 復習テスト 1	事前学習	ワークシートに提示された英単語を発音し、児童への発音指導について考察する。	
		事後学習	児童への発音と語彙指導に役立つ指導方法についてワークシートを基に振り返る。	
第 6 回	II. 実践編：外国語体験を通して学ぶ指導技術 ①教師の役割 ②活動形態とクラスの雰囲気づくりの工夫	事前学習	教科書の第 3 章と指導案 1 (pp. 173-183) を読み、教師の役割、指導上の工夫について考えてみる。	
		事後学習	左記①、②の観点から学んだ事をワークシートに記入する。	
第 7 回	③教材研究の視点	事前学習	教科書の第 7 章と第 8 章を読み、児童の活動を促す教材とはどのようなものであるべき	

			か理解する。
		事後学習	左記の視点から学んだ事をワークシートに記入する。
第 8 回	④教材・教具・機器の活用法	事前学習	教科書の第 10 章を読み、外国語の授業に適した教材・教具・機器の活用法とは何かについて理解する。
		事後学習	左記の視点から学んだ事をワークシートに記入する。
第 9 回	⑤評価のあり方、進め方 復習テスト 2	事前学習	教科書の第 11 章を読み、外国語の授業における評価方法について理解する。
		事後学習	左記の視点から学んだ事をワークシートに記入する。
第 10 回	III. 模擬授業に向けて ①指導案の作成 (Group Work)	事前学習	指導案の原案を完成させる。
		事後学習	学習を振り返りながら指導案を修正する。
第 11 回	②模擬授業のリハーサル (Group Work)	事前学習	授業担当部分の事前準備をする。
		事後学習	指導案とワークシートを最終点検する。
第 12 回	③模擬授業 (授業観察・質疑応答・自己評価)	事前学習	模擬授業に向け、授業の流れの確認とリハーサルを行っておく。
		事後学習	模擬授業評価シートに、見学した授業の良い点と課題と対策を記入する。
第 13 回	③模擬授業 (授業観察・質疑応答・自己評価) 予備日 (模擬授業無い場合、授業実践を踏まえての教科書既習事項の振り返り)	事前学習	模擬授業に向け、授業の流れの確認とリハーサルを行っておく。
		事後学習	模擬授業評価シートに、見学した授業の良い点と課題と対策を記入する。
第 14 回	④模擬授業の評価・クラスディスカッション・総評	事前学習	模擬授業評価シートのポイントを確認する。
		事後学習	模擬授業評価シートを提出できるよう完成させる。
第 15 回	外国語活動の指導法に関する重要事項の総まとめ	事前学習	振り返りシートを見直し、重要事項をまとめておく。
		事後学習	外国語の授業を実施する上で必要なことを引き続き実践する。